

作業学習 学習指導案

1 単元名

「いらっしやいませ！さわやかミニチュアフードショップ 公民館店へ!!」

2 生徒の状態

	単元の学習に関する状態	単元で付けたい力（単元の目標）
A男 (中1)	<p>「関心・意欲・態度」 自分の失敗を自分から言えなかったり認められなかったりするところがある。しかし、見通しがもて、やることははっきりすれば、安心して進んで取り組むことができる。</p> <p>「技能」 鉛筆や箸を正しく持てない等、指先の巧緻性が低く、親指と人差し指をうまく使うことが難しい。</p> <p>「知識・理解」 金種の合計の計算はできる。場面に応じた計算式を立てることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 失敗したり戸惑ったり時には、教師にその事実と要求（どうしてほしいのか）を自分から伝えられる。 師範や完成見本を見たり、具体例から作り方を理解したりすることで、自分の役割を理解して製作活動をする。 原材料費、売り上げ、利益について理解し、それらを算出するために必要な計算式を立てて計算し、経済活動の基礎を理解する。
B男 (中1)	<p>「関心・意欲・態度」 課題や活動に対して集中して取り組むことができる。注意がそれることが多く、聞かせたい場面では名前を呼ぶなどの注意喚起が必要である。</p> <p>「技能」 鉛筆を正しく持てない、ハサミの操作が難しい等、指先の巧緻性が低く、細かい作業を行うことが難しい。</p> <p>「知識・理解」 金種の合計の計算はできる。場面に応じた計算式を立てることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明確に目標をもって手順を理解し、必要に応じて注意喚起の言葉がけを受けることで、課題や活動に対して集中して取り組む。 師範や完成見本を見たり、具体例から作り方を理解したりすることで、自分の役割を理解して製作活動をする。 原材料費、売り上げ、利益について理解し、それらを算出するために必要な計算式を立てて計算し、経済活動の基礎を理解する。
C男 (中1)	<p>「関心・意欲・態度」 課題や活動に対して真面目に取り組むことができる。注意力が弱く、集中が続かないことがある。</p> <p>「技能」 見る力が弱く、画数の多い漢字の誤りがあったり、計測では目盛りを読むことに苦勞する。</p> <p>「知識・理解」 金種の合計の計算や、場面に応じた計算式を立てることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明確に目標をもって手順を理解し、必要に応じて注意喚起の言葉がけを受けることで、課題や活動に対して集中して取り組む。 注目すべき箇所を分かりやすく示したり計算機器を工夫することで、正しく漢字が書けたり計量できたりする。 原材料費、売り上げ、利益について理解したり、それらを算出するために必要な計算式を立てて計算し、経済活動の基礎を理解する。
D女 (中2)	<p>「関心・意欲・態度」 課題や活動に対して真面目に取り組むことができる。仲間とともに製作活動できるが、客に喜んで買ってもらいたいといった客への相手意識が低い。</p> <p>「技能」 指先を上手にを使って、細かい作業を丁寧にすることができる。</p> <p>「知識・理解」 金種の合計の計算はできる。場面に応じた計算式を立てることが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ただ漠然と製作販売活動に取り組むのではなく、自分の好みの品を買った時にもてなされた経験や、これまでの販売学習を想起して、自分が作る製品を買う客への相手意識をもって取り組む。 師範や完成見本を見たり、具体例から作り方を理解したりすることで、丁寧な製品作りをする。 原材料費、売り上げ、利益について、それらを算出するために必要な計算式を立てて計算し、経済活動の基礎を理解する。
E男 (中3)	<p>「関心・意欲・態度」 課題や活動に対して真面目に取り組むことができる。仲間とともに製作活動でき、準備や後片付けも進んで行うことができる。</p> <p>「技能」 鉛筆を正しく持てない、ハサミの操作が難しい等、指先の巧緻性が低く、細かい作業を行うことが難しい。</p> <p>「知識・理解」 金種の合計の計算や、簡単な場面に応じた計算式を立てることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明確に目標をもって手順を理解し、課題や活動に対して集中して取り組む。 師範や完成見本を見たり、具体例から作り方を理解したりすることで、最後まで丁寧な製品作りをする。 原材料費、売り上げ、利益について、それらを算出するために必要な計算式を立てて計算し、経済活動の基礎を理解する。
F男 (中3)	<p>「関心・意欲・態度」 課題や活動に対して意欲的に取り組むことができる。場に応じた挨拶や作業報告をすることができる。素直に指摘を受け取って自分の気持ちを立て直すことが難しいときがある。</p> <p>「技能」 指先を上手にを使って、細かい作業を丁寧にすることができる。</p> <p>「知識・理解」 金種の合計の計算や、簡単な場面に応じた計算式を立てることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 集団の目標に対する自分の立場を理解し、自分の気持ちをコントロールしながら、課題や活動に対して意欲をもって取り組む。 師範や完成見本を見たり、具体例から作り方を理解したりすることで、正確な製品作りをする。 原材料費、売り上げ、利益について、それらを算出するために必要な計算式を立てて計算し、経済活動の基礎を理解する。

3 単元について

(1) 単元の目標

- ◎校区の公民館祭りのバザーに出店することを目指して、仲間や地域の人とかかわりながら製品作りや販売準備などの活動に意欲的に取り組み、協力してバザーを成功させることができる。
- ・磁石付きミニチュアフードの製作活動や販売活動を通して「働く喜び」ややりがいをもって取り組むことができる。(勤労観・職業観)
 - ・磁石付きミニチュアフードの製作活動や販売活動に見通しをもち、自分の役割や分担の作業に最後まで意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
 - ・役割や分担の作業に必要な技能を高め、正確に作業に取り組んだり、丁寧な仕上がりの製品を作ったりすることができる。(技能)
 - ・製造販売活動を通して、原材料費、売り上げ、利益等の経済活動の基礎を理解することができる。(知識・理解)

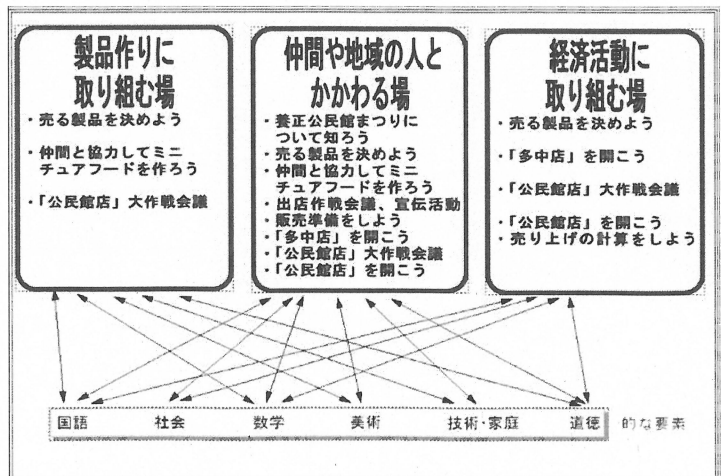
(2) 作業学習について

①必然性のあるテーマ設定【研究内容：①－ア】

本単元のテーマは、「いらっしやいませ！さわやかミニチュアフード公民館店へ!!」とする。校区にある養正公民館では、年一回秋に「養正公民館まつり」が開催され、展示やバザーなどが行われている。本単元では、作業学習を通して、製品作り・販売準備などの活動に意欲的に取り組むことで「校区の公民館まつりのバザーでお店が出したい」という意欲を次第に高めていき、バザーの成功を目指していく。その結果として、仲間とのかかわり、地域とのつながり、経済活動の基礎を学ぶことができると考え、学習テーマとして取り上げた。生徒たちは、地域の行事などに参加する喜びや楽しさを経験することが少なかった。地域で生きる喜びや楽しさ、自分たちが作った製品が地域の人々に喜んでもらえたり、販売し買ってもらえたりするという経験をしていく学習過程そのものが、生徒たちが「働く喜び」を実感していく姿であると考え。

②「各教科等を合わせた指導」の形態【研究内容：①－イ, ②－ア】

働く作業活動やそれと関わる諸活動には、教科別に分けきれない、未分化で総合的な内容が含まれる。生活単元学習と同じく領域・教科を合わせた指導の一つの形態である。そこで、作業学習である本単元の一連の学習内容を、右のようにまとめた。



ア 製品作りについて

製品作りに慣れてくると、集中が途切れたり丁寧さが欠けたりする時がある。作る目的や作る個数といった目標がはっきりしている時や、作業方法やその手順が明確であり安心して取り組める環境である時は、とても意欲的である。安心して取り組める環境作りや製品を作っているということを意識できるような言葉がけなどで支援することで集中力を保ったり丁寧に仕上げる喜びをもたせたりしたい。

イ 仲間や地域とのかかわりについて

初対面の人やかかわりが少ない人に自分から進んで挨拶をしたり話しかけたりすることは難しい。毎日接する仲間や教師には安心して話しかけたり、かかわったりすることができる。同公民館を利用することはあっても、催しに参加することは少ない。これまでに繰り返し取り組んできている販売活動によって催しに参加することで、初対面の人とも自信をもってかかわることができる場にしていきたい。

ウ 経済活動の取組について

学校の職員のような「身内」だけを対象に販売活動をしていた時は、売ればほとんど買ってもらえると思っていた。しかし、地域の一般の方々への販売活動は容易ではない。より好んでもらえる製品、より完成度の高い製品がそろっていなければならない。また、買っていただくためには、販売上の工夫（例えば、呼び込みや接客の言葉遣いや、のぞいてみようかなと思ってもらえるための装飾 等）も必要である。

こうしたことを、生徒各自の店舗での購入時に買うか買わないか迷った経験、過去の製造販売活動の振り返りを元に想起させていくことで、購入していただけるということがどれだけ大変なことであることを理解させたい。そして、有り難いという心を製品作りや他者とのかかわりの中で活かせるようにしていきたい。こうした経験を積み重ねることで、を生徒の主体的な勤労観の礎となる「働く喜び」ややりがいを実感させていきたい。

③学習素材や学習形態【研究内容：②－ア】

素材である紙粘土を用い、ミニチュアフードを作り、下部に磁石をつけて完成させていく。

素材を紙粘土とした理由は、

- ・粘土の可塑性を活かすことで、失敗しても何度でも作り直すことができる。
- ・絵の具を混ぜることで、必要とする色の粘土が作りやすい。
- ・乾燥が早く、焼成の必要もなく、扱いやすい。

などであり、生徒が安心して製品作りに向かうことができるからである。

また、一つの製品だけを流れ作業として製造していくのではなく、生徒一人一人を「ミニチュアフード〇〇班□□係」として位置づけ、3班制の中の一つの役割(係)を担うことで、その役割に責任と誇り、「働く喜び」をもって取り組めるようにしていく。また、教師も一つの工程を担当しながら全体の動きを把握していく支援的対応を行うようにしていく。

4 単元指導計画 【研究内容：②ーア、イ】

(1) 単元の目標

<p>◎校区の公民館祭りのバザーに出店することを目指して、仲間や地域の人とかかわりながら製品作りや販売準備などの活動に意欲的に取り組み、協力してバザーを成功させることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磁石付きミニチュアフードの製作活動や販売活動を通して「働く喜び」ややりがいをもって取り組むことができる。(勤労観・職業観) ・製作活動や販売活動に見通しをもち、自分の役割や分担の作業に最後まで意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度) ・役割や分担の作業に必要な技能を高め、正確に作業に取り組んだり、丁寧な仕上がりの製品を作ったりすることができる。(技能) ・製造販売活動を通して、原材料費、売り上げ、利益等の経済活動の基礎を理解することができる。(知識・理解) 	
<p>◎各生徒の目標 「2 生徒の状態」の単元で付けたい力(単元の目標)に記載</p>	

(2) 計画 (全26時間)

時	主な学習活動	抽出	個別の目標	手立て(支援)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・養正公民館祭りが毎年開かれていることや内容を知る。 ・公民館から、出店の誘いがあったことを知る。 	B男(中1)	○公民館の文書から、自分たちが何をどうしたいかを話すことができる。	・文書の内容を要約して、板書する。
		F男(中3)	○「これからどんな準備が必要か」という質問に、経験に基づいた内容で答えることができる。	・「ジャガイモ販売」の時には、どんな準備をしたかを想起させる。
2 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニチュアフードの試作品を作る。 ・試作品の中から、3種類製品化する物を決める。 ・製作グループを決め、製品作りの計画を立てる。 	B男(中1)	○販売したいミニチュアフードを選び、実際に1種類以上の形を作ることができる。	・製品化できそうなものを5種類ほど見本として提示する。
		F男(中3)	○5種類の見本をすべて作り、ショップとして製造したいミニチュアフードを3種類選ぶことができる。	・「買ってもらえそうなものどれだろう」という考える視点を与える。
4 ↓ 18	<ul style="list-style-type: none"> ・製品を作る。 成形(本時) ニス塗り マグネット取り付け 	B男(中1)	○私語や他事をしないで、取り組む対象物を注視しながら自分の担当の製作作業をする。	・短いスパンの工程を設定する。教師とともに取り組み、合格の場合、確認シールを貼ることで集中して取り組めるようにする。また、取り組んでいく過程の中で、励ましの言葉がけだけでできるようにしたり、見届けだけでよくなったりするときには、シールをなくしたり言葉がけを減らしたりして支援の頻度を下げていく。
		F男(中3)	○見本と比較したり補助具などを使ったりして、自分の担当の製作作業をする。	・合格基準がはっきりさせた見本や手順を示す。
		B男(中1)	○手本を見て、チラシやポスターを描く。	・手本を手元に置いて見られるようにする。
19 20	<ul style="list-style-type: none"> ・販売に向けて、チラシやポスターなどの宣伝に必要なもの作り、宣伝活動をする。 	F男(中3)	○チラシやポスター記載する必要な情報を考えて、整理した情報を元にして描く。	・「ジャガイモ販売」の時には、どんな準備をしたかを想起させる。
		B男(中1)	○自分の分担の文字に色を塗って、看板や幟の文字を完成させる。	・自分が担当する文字をはっきり示しておく。
21 22	<ul style="list-style-type: none"> ・販売(店舗)に必要な看板や店の飾りなどを作る。 ・販売の役割分担をする。 	F男(中3)	○「遠くからでもひと目で何屋(店)か分かるようにするにはどうすればいいか」という質問に、経験に基づいた内容で答えることができる。	・夏祭りの露店はどうなっていたか等を想起させる。必要に応じて、写真も用意しておく。
		B男(中1)	○早口にならないように、「いらっしゃいませ」「ありがとうございました。」の挨拶ができる。	・あらかじめ学級で練習して臨む。客である職員にその場で「〇〇がいいね」や、「さらに△△するといいよ」と、言葉がけをしてもらう。
23 24 25	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館でのバザーに出店し、地域の方々に販売活動を行う。 	B男(中1)	○前回の販売で受けたアドバイスや指摘を活かして、販売活動をする。	・前回の販売で受けたアドバイスや指摘がすぐわかるように、客からは見えない位置に貼っておく。
		F男(中3)	○公民館祭りの他のバザー店で、自分の好きな商品(昼食)を買う。	・できたときには、即時評価する。事前に他の販売品と単価が分かるようにしておく。
26	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費や売り上げの精算を行う。 	B男(中1)	○「手元にあるお金をすべてもうけとしてよいか」という質問に、「ジャガイモ販売」の経験に基づいた内容で答えることができる。	・「粘土や磁石を買うお金はどこから出ているか」という考える視点を与える。
		F男(中3)	○原材料費、売上金から必要な計算式を立てて計算し、利益を求める。	・原材料費、売上金が分かるように板書し、電卓を使うように用意する。

5 研究について

(1) 研究テーマ

生徒が精いっぱい活動し、仲間とともに「働く喜び」を実感することができる作業学習の授業作り

(2) 主題設定の理由

どの生徒も、将来の社会生活は、働くことが中心になって展開されることが期待され、また、展開されなければ社会的に職業自立することは望めない。働く態度や力は、働く生活を積み重ねることで培われていくものである。作業学習を位置付けた学校生活に取り組むことで、学校生活と将来の就労生活がつながりやすくなり、地域社会でのスムーズな社会的な就労生活への移行が期待できる。

また、生徒の学習上の特性等について、特別支援学校学習指導要領解説総則等編では、

- ・学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくい
- ・成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていない 等

と、述べられている。仲間とともに働く作業活動を中心とした一つの目標に取り組みながら、自分の願いや思いを達成することができるような学習活動を設定し、一人一人の教育的ニーズに応じた取り組みを行っていくことが大切であると考え。生徒が精いっぱい活動し、できた喜びを味わい、仲間とともに喜び合うことができるようにしていくことで、生徒の主体的な勤労観の礎となる「働く喜び」を実感することができると考えている。

(3) 願う生徒の姿

◎働く作業活動に関して自分の目標や願いをもち、自分から精いっぱい取り組んで、仲間と一緒にできたことを喜ぶ生徒

①「働く喜び」の実感

「願う生徒の姿」には、次の2つの「働く喜び」の実感が含まれている。

- ・自分から精いっぱい活動し、できたことを喜ぶ。
- ・仲間とともに精いっぱい活動し、仲間とともにできたことを喜ぶ。

②願う生徒の姿に迫るために大切にしたいこと

「(生徒の)もてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う」という「特別支援教育の理念」(平成19年 文科省)を大切にしていきたい。

『できる環境作り』『できる状況作り』をすることで、生徒がもっている力を十分に発揮できるようにしていきたいと考え、次の2つの点を大切にしていく。

- ・生徒が活動や学習に見通しをもつことができるようにする。
- ・状況や変化を受け入れ、周りの環境や人に合わせるようにする。

(4) 願う生徒の姿に迫るための具体的方途【研究内容】

①「働く喜び」が実感できるようにするための指導計画の工夫

ア：生徒が「働く喜び」をもち、必然性のあるテーマ設定の工夫

イ：「各教科等を合わせた指導」の形態の活用

②「働く喜び」が実感できるようにするための指導方法の工夫

ア：生徒が「働く喜び」を感じることができる学習素材や学習形態の工夫

イ：十分な活動量、じっくり取り組める活動時間を確保する

③生徒が「働く喜び」が実感できるようにするための評価の工夫

ア：生徒が自らが「働く喜び」を評価できるような場の設定

イ：生徒の活動を、価値付け方向付けるような評価の場の設定

けやき教室 教材置き場・制服用ロッカー等

出勤札表

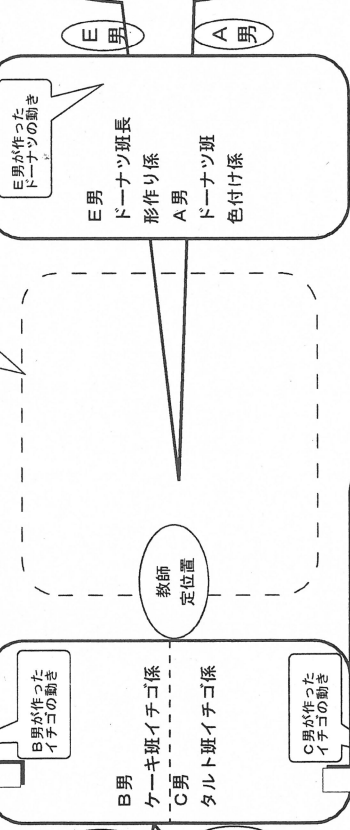
大切にしたいこと
(補完)

・始めた頃はイチゴ係のB男とC男の集中がされやすいため、教師もイチゴ係の工程を担いながら全体の動きを把握してきた。結果として、ドーナツ班へは常に音を向けた姿勢であった。しかし、イチゴ係の2人の集中が持続するようになってきたので、全体が把握しやすい配置へ変更した。

それぞれの所に、
・材料、器具、補助具
等を置く。

・本単元の概要
(出店までの経緯、出店概要)
・スケジュール表、出来高表 等

教師の動線



・1年生と上級生、
個の状態を考慮した
ペア設定を行った。
・お互いの取り組み
様子見ることがで
き、作業効率や支援
のしやすさを考えた
意図的な配置を工夫
した。

背面掲示板

特支学級
ワークスペース
※ここを挟んで隣に
情報学級があるた
作業部屋として占
す。道具置き場等
に必要は作業中
でも活用する。
空き教室に余裕が
あれば、専用の作
業部屋を確保し
たい。

【修正前】

補充するための材料・用具置き場
紙粘土、絵の具
ラップ、爪楊枝
ジップロックパック 等

W.S
入口

ロッカー

- ・個人の通常ロッカー
- ・各班ごとに必要な材料、器具等を入れたケースを収納しておく。
- ・最上部には、製品等を並べていく。(乾燥・ニス塗り後・マシネット付け完了 等) ワークスペースも活用する。

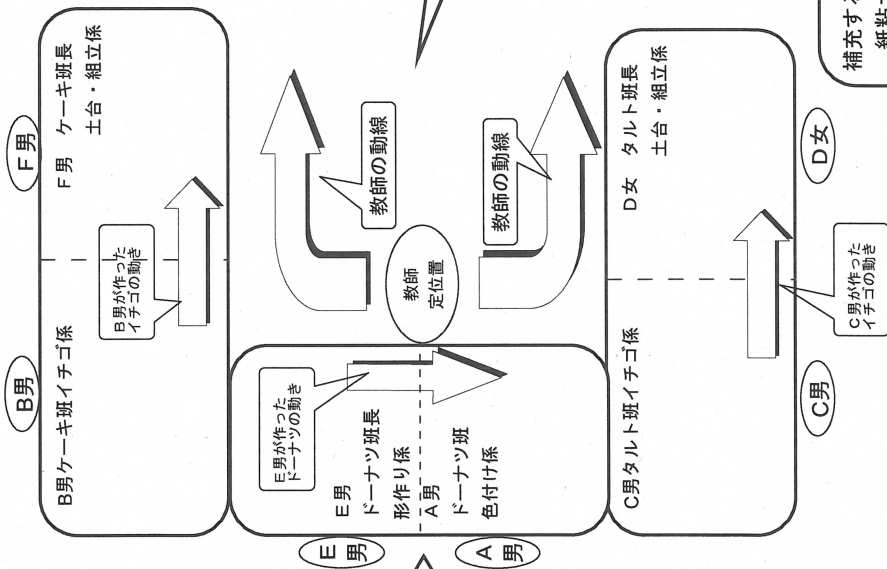
けやき教室 教材置き場・制服用ロッカー等

出勤札表

大切にしたいこと
(掲示)

・各イチゴ係とドーナツ班の位置を動かした。その結果、コの字型の隊形とすることができ、作業効率が上がった。また、各イチゴ係が班長と同じテーブルになり、班長がイチゴ係のサポートができるようになり、それぞれの係の一体感を深めることができました。

それぞれの所に、
・材料、器具、補助具
等を置く。



背面 掲 示 板

・本単元の概要
(出店までの経緯、出店概要) 等
・スケジュール表、出来高表 等

特支学級
ワークスペース
※ここを採んで隣にた
め、知的学級の作
業部屋として占有
する。道具置き場等
とし、道具有必要に
なる。また、水道は作
業中でも活用する。
空き教室に余裕が
あれば、専用の
作業部屋を確保し
たい。

【修正後】

補充するための材料・用具置き場
紙粘土、絵の具
ラップ、爪楊枝
ジップロックバック 等

W, S
入口

ロッカー

・個人の通常ロッカー
・各班ごとで必要な材料、器具等を収納しておく。
・最上には、製品を並べていく。(乾燥・ニス塗り後・マグネット付け完了 等) ワークスペースも活用する。

廊下

ポイント②(作業に向かう意欲を高める工夫)「社員証(名札)を出動し、職場に出動し、一人一人が意欲を高められるようにする。

ポイント①(作業形態の工夫)1年生と上級生が同じ班となり、また、個の状態や人間関係を考慮して班編成を行うことで、2,3年生は、上級生として、また、班長としての自覚をもつて、自分の班の製品作りを意識的に取り組むことができ、1年生は上級生の姿を手本として学ぶことができた。

ポイント③(作業に向かう意欲を高める工夫)「社訓」のように、大切にしたい姿を全員で唱和し、働く仲間として同じ気持ち、姿のイメージをもたせる。

ポイント④(作業環境)各班组ごとの材料や器具を分け、各班组が共通な材料の補充コーナーを設け、必要なものをもつときに自分たちで用意できるようにした。

ポイント⑤(安心して正確な作業に取り組める工夫)決めるための型枠や、イチゴをのせ替る位置を決める補助員などを用意する。※【⑤と⑦】の添付資料参照

ポイント⑥(教師の支援)役割の支障、主体的に取組む(働く)ことを第一とし、指示を最低限とした。生徒は「自ら働く教師」であり、教師は「共に働く人」という立場で、支援の対応を行った。また、教師が生徒の中心に入り活動をしてきたことで、生徒の作業上の困難さに気づき、意欲を取り戻し、準備ができてきた。また、意欲が高まってきている様子を見て、意欲を高められるようにサポートする。

「げやき」作業学習 大切にしたい姿
・働く姿がしっかりしていること。
・よく見て、よく聞いて、よく学ぶ姿。
・仲間と協力して、意欲を持って取り組むこと。

学習内容	各生徒の学習活動(☆は班長)							評価
	E男(中3) F男(中2) D女(中2) C男(中1) B男(中1)	E男(中3) D女(中2) C男(中1) B男(中1)	D女(中2) C男(中1) B男(中1)	C男(中1) B男(中1)	B男(中1) C男(中1)	F男(中3) E男(中3)	その他	
学習内容	各班组ごとに本日の目標製作数を決める。 ・各班组ごとに本日の目標製作数を決める。 ・各班组ごとに本日の目標製作数を決める。 ・各班组ごとに本日の目標製作数を決める。							各班组の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。逆転の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。
※(作業前活動) 身支度、準備をする	社員証(名札)をつけ、自分の出動札を渡す。(これから作業に向かうこと)を示す。 ・自分の必要な材料、器具を準備できるか。各班组ごとに必要な材料、器具等は、班ごとにケースに入れておく。 ★各班員同士で、お互いの準備を確認し合う。							各班组の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。逆転の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。
1 思いきつ・大切にしたい姿をつかむ	今日の目標製作数を決める。							各班组の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。逆転の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。
2 今日の日数を確保して製作している様子が見られる。	今日の目標製作数を決める。							各班组の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。逆転の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。
3 班ごとに作業を進める様子が見られる。	今日の目標製作数を決める。							各班组の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。逆転の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。
4 後片付け・掃除をする。	今日の目標製作数を決める。							各班组の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。逆転の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。
5 作業の振り返りをする【工場長(男)による進行】	今日の目標製作数を決める。							各班组の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。逆転の半分の日数を確保して製作している様子が見られる。

6 本時の振り返り
・仲間と協力して、自分たちの得意な作業に取り組む。
・「げやき」作業の仕方を身に付けて、仲間と協力して取り組む。
・C男(中1): 成長して、自分たちの得意な作業に取り組む。
・D女(中2): 成長して、自分たちの得意な作業に取り組む。
・E男(中3): 成長して、自分たちの得意な作業に取り組む。
・F男(中3): 成長して、自分たちの得意な作業に取り組む。

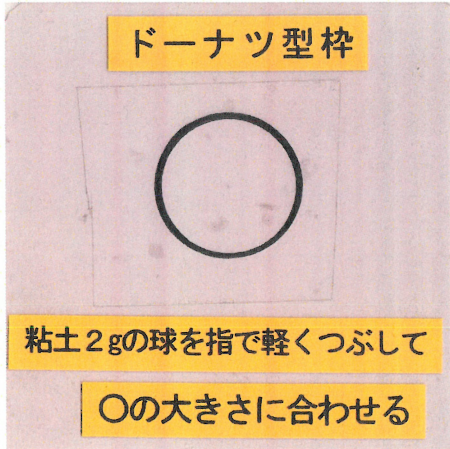
7 本時の展開
・本時の振り返り
・本時の振り返り
・本時の振り返り
・本時の振り返り

ポイント⑦(効果的な評価について)報告をする前に、自分で検品をするようにした。その際、どこがどうなっていないかを確認できるようにした(※【⑤と⑦】の添付資料参照)。報告し、教師の点検を受けるときに、生徒も一緒に見せていく。そして、手順書及び確認表で検品のポイントを示しながら合格かどうか伝えるようにする。さらにそのポイントに気づくようになる。

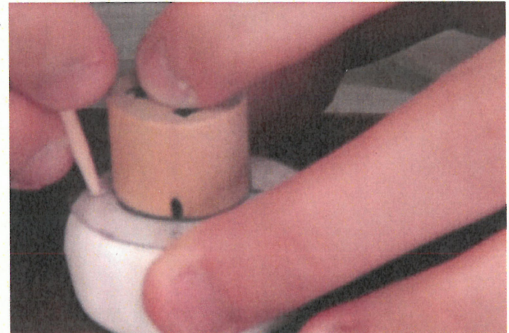
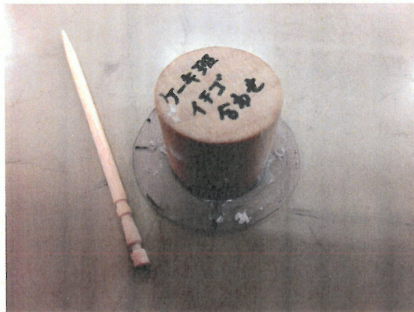
ポイント⑧(効果的な評価について)丁寧につくってきた事実に対して、それは単に自己満足の商品ではなく、購入者への意識が根底にある「お金を出して買っていただくための製品作り」を行ってきたことを評価し、販売準備を行うこと、本時以降も、常に購入を意図した丁寧な製品作りや、販売準備に向かうことができると考える。



【ポイント⑤と⑦の添付資料】



【ポイント⑦ 土台作りに使う型枠】
決まった重さの紙粘土を量り取り、丸めて枠の大きさに広げていく。



【ポイント⑦ ケーキ イチゴの位置を決める補助具】
ケーキの土台に均等にイチゴをのせる補助具。土台の上へのせ、爪楊枝で四カ所印を付けておく。

【ポイント⑤⑦
手順・確認表】
製作上、ポイントとなるところをOと×で視覚的に表示し、いつでも確認することができるようにする。また、検品のポイントも記し、自分で確認・評価できるようにした。

ケーキ 土台作り・組立

- 粘土(白色)を3g量り取り、キャップの中に詰めて、周りにも貼っていく
- 補助具を使って印を付けてイチゴを付ける。
- イチゴとイチゴの間にクリームをすき間なく付ける。
- ・正方形になっている、
・イチゴとクリームのすき間なし } 自分で確かめる
- 5個できたら、大きな声で報告する「できました 見てください。」
- 合格したら、台の上に並べて置く

イチゴ組への補助の目的
補助の目的「イチゴの位置」 「イチゴの位置の合わせ、ケーキが完成した上」
検品の標準「イチゴの位置」 「イチゴの位置の合わせ、イチゴの位置の合わせ」 など
イチゴについて「イチゴの位置」 「イチゴの位置の合わせ」 「イチゴの位置の合わせ」

タルト 土台作り

- 粘土(黄土色)を1g量り、ボールを作る。
- ボールを型枠におき指で軽く押しつぶし、黒のOの大きさに合わせる
- のりキャップをまん中におき、キャップを押して、粘土を赤のOの大きさまで広げる。
- はみ出た粘土をキャップにそって折り返す。
- 形を整える
- 見本と同じ大きさか、形はきれいか } 自分で確かめる
- 5個できたら、大きな声で報告する「できました 見てください。」